

内部質保証に関する今年度の重点事項について

学 長

昨年9月、「仙台白百合女子大学内部保証システム」が制定され、全学的な内部質保証については、学科長会で検討することとした。

学科長会においては、2018年度の各部署から提出された「部署別年次目標・評価書」に基づき、今年度は、主に4学科、入試広報部、教学部及び図書館についての業務を検証し、本学としての内部質保証の観点を踏まえ、「今年度の重点事項」を以下のとおり策定した。

各部署においては、所掌する重点事項について検討し順次実施すること。

仙台白百合女子大学内部質保証システムについて（抜粋）

2018年9月19日

学 長 裁 定

（観 点）（内部質保証の体制）

第2条 学長のリーダーシップのもと、内部質保証システムを総体的に所管する部署を当分の間、学科長会とする。

- 2 学科長会議は、全学的な教学体制や業務実施部署等によるPDCAサイクル等を適切に機能させ、恒常的かつ継続的に業務の質の保証及び向上に取り組むものとする。
- 3 学科長会は、必要に応じ、内部質保証システムの実行性について、学長に意見を申し出ることができる。

第5条 内部質保証システムの観点は、次の事項を確認しながら行うものとする。

- (1) 高度化を図り、かつ実質的な効果と自立的な業務となること。
- (2) 本学の理念・目的、中期目標への関連性が明確化された業務となること。
- (3) 各部署間での共有できる業務となること。
- (4) 客観的・合理的質の高いデータに基づいた業務となること。
- (5) 社会環境等の変化に即応した業務となること。
- (6) 事項によっては、適切性を担保するための第三者評価や積極的な情報の公開による社会に対する担保となる業務になること。
- (7) 内部質保証の取り組みが日常的な活動となるよう恒常性を持つ業務となること。

（学長の責務）

第8条 学長は、内部質保証システムにおける適切な業務の循環について把握し、必要に応じ意見を求め、本学の教育研究及び管理・運営の継続的かつ自主的・自立的な向上に努めなければならない。

今年度の重点事項

【質保証】

- ① ディプロマポリシーを満たしているかの検証方法を検討する。
「教育・研究推進委員会」
- ② 卒業後のアンケートを実施すること。(卒業生及び企業の人事担当者)
大学での活動が、現在の職業にどう生かされているのかを主体に検討すること。
「キャリアセンター」
- ③ 卒業状況の把握
経年的比較を数値化し、検証すること。
「キャリアセンター」
- ④ 成績評価の改善について
成績評価は学生の学習成果を見るにあたっての核である。卒業試験、国試合格率、就職率、
など諸々の指標はあるが、大学教育の本質を考えれば、個々の授業の成績評価とその平均で
ある GPA が最も基本的で重要な大学教育の成果の指標である。
それだけに、成績評価が正当に行われるよう、絶えず見直す必要がある。
授業評価において、大学としての評価基準等の方向性を定め、それに沿った研修などの取
り組み、チェックのための相互評価（成績評価分布の公開など）を検討すること。
「教学部」「教育・研究推進委員会」
- ⑤ 授業アンケートの活用
授業アンケートに基づき、授業改善に資する取り組み（分析、各学科での対応、大学全体
の研修の実施等）について、教員の理解を得られるよう検討すること。
「教育・研究推進委員会」
- ⑥ IR 機能を充実させること
集約する情報を確定し、各部署からデータを集約し、大学経営に資するデータを策定する
こと。
「IR 推進委員会」

【教育】

- ① 初年次教育の充実
新科目の実施結果の検証を行うこと。
その結果を受けて、初年次教育には大学全体として行うべき最大公約数的なもの、学科
に特化したものとの融合、現行の「共通基礎演習」の精度、すなわち、どういう教育を行う
かが分かるテキスト・マニュアルの作成等各学科で検討すること。
「教学部」「各学科」
- ② キャリア教育の充実
SPI 対策講座なども含めて 1 年次から系統だったキャリア教育を構築する。
この際、キャリアセンターの取り組みとの連動も考慮すること。
「教学部」「キャリアセンター」
- ③ カリキュラムの体系化
カリキュラムポリシーとの整合性を基に、低学年次における基礎演習と、高学年次におけ
る総合演習・特別演習との連続性・継続性についての体系化を図ること。
「教学部」
- ④ グローバル化、海外研修の充実

本学の特徴ともなるもので、全学的に充実を図り、教育における海外研修の位置づけ等体系化を図ること。 「教学部」

⑤ アクティブラーニングへの取組み

アクティブラーニングにおいて、実際に教育効果が上がっているのかどうかの事後評価を検討すること、特に本年度導入のレスポンス使用する授業の事後評価を行うこと。 「教学部」

⑥ カトリック大学としての教育・研究の活性化

【教育体制】

① 学科の新体制と教育プログラムの構築

全学的な観点からの教育体制の検討、特に介護福祉士の募集停止後の新たな方向に向けた検討を早急に実施すること。 「各学科、学長、学部長」

【入学者選抜・入試広報】

① 入試結果の分析

分析に基づいた入試戦略を策定すること。

どの段階で何をやったことが入試に効いていたのか、どの段階で何をやるべきだったのか、など、全学的な分析と学科の特殊性に基づく分析を行うこと。 「入試広報部」

② オープンキャンパスの充実

OC 来場者に何を PR したいのかを明確にした内容での開催が必要であり、毎回強調テーマを変える工夫も必要である。特に模擬講義は大学の教育内容と教員の資質が評価される場でもある。OC の内容を再検討すること。 「入試広報部」

③ 進学相談会への積極的参加

重点地域と時期を検討し、さらに参加するメンバーを検討すること。

十分なマニュアルを作成し、必要に応じ、一定の事前教育を実施することで広報の質を確保すること。(高校訪問でも同様) 「入試広報部」

【学生支援】

① 卒業生を招いた講話

卒業生のネットワークづくりが必要。個々の教員に頼る方法では限界がある。

どういう点での活用ができるのか。

「教学部」

② 学生支援組織の見直し

アドバイザーの役割を再検討すること。

「学科長会」

学修支援センターの役割を再検討すること。特にリメディアル教育の充実を図り、必要に応じた授業・講座が迅速に開講されるようにすること。 「学修支援センター」

③ 保健室・学生相談室の連携強化

設置場所を含め、利用者の利便性と双方の連携強化を図り、検討すること。また学修支援センターとの関係についても再検討すること。 「教学部」「学修支援センター」ほか

④ 学修支援センター企画の精査

学修支援センター予算を利用した企画が、「学修支援」に相応しいものなのかどうかを精査する体制を構築すること。 「学修支援センター」

【図書館】

① 利用者数増加のための各取組み等の検討

図書館のあり方を再検討し、これに基づき、具体策を検討・実施すること。

また、ラーニングコモンズを検討・設置すること。

「図書館」

【その他】

① 教員評価システムを構築すること。

目的等を明確にし、全学的に納得のいくシステムを構築すること。

暫定的なシステムと捉え、数年の試行を繰り返しながらの構築でよい。

「学長・学部長」

② 中期目標・計画の策定

「学長・学部長・事務局長」